

### E-3 多雪地帯における農家住宅内温・湿度の実態調査 (夏季)

新潟大教育長岡分校 ○大島 愛子  
新潟県農業技術専技 影山 信子  
新潟県立安塚校牧分校 砂山 和子

1. 本邦の日本海側の気象は年間を通じて多湿であり、かつ、冬季は豪雪を伴う。これら戸外気象の住宅内に与える影響は大きい。農家住宅は伝統的な間取形式と居住者の経験上の知恵により作られて来たと考えられる。本文は夏季の戸外気象の蒸し暑さが、草葺の屋根や窓・出入口の取り方により、どのように解決されているかを知ろうとした。また、最近、農村では改築する家が多く、それらは、ほとんど新建材を使用している。これら新築家屋と従来の農家住宅との温・湿度の相違も観察しようとした。

2. 調査地は新潟県における豪雪地帯(平均積雪深300~350 cm)の東頸城郡牧村と北魚沼郡堀之内町の二カ所を選んだ。対象家屋は5~10軒とし、この中に草葺・瓦葺・トタン葺および壁体に新建材を使用したものを含ませた。測定室は団欒室(いろいろのある部屋)・寝室・子供室・客間とし、自然の生活状態すなわち、窓・出入口は

開放状態のまま測定した。測定計器は携帯用電気湿度計(感湿要素  $ZnCl_2$ )、サーミスター温度計とした。測定点は室中央部は天井・室中央高・床を各3点、その他は室中央高を6点、計9点とした。

3. 気温は草葺家屋は低く、新建材使用の家は高かった。湿度は一般に草葺家屋の方が高かった。